

新小山市民病院ニュースレター

Shin-  yama City Hospital News letter

Vol.48

1 病院長挨拶 ～ 退任のご挨拶 ～



今月末で、佐田次期理事長兼病院長に引き継ぎます。今まで、大変お世話になりました。13年間を振り返り、私の退任のご挨拶に代えさせていただきます。

最初は、「どげんかせんといかん」でした。そこで市民病院を仕切り直して再出発するぞという思いで、病院の名称を変更しました。次に、「独立行政法人とは、もはや赤字は自分たちの給料で補てんする組織」という危機意識を持つことでした。そして、市民病院という文字通りの「市民が求める病院」とは、どういうことかを

3つの行動目標で表しました。「最高の患者サービス」、「診療の質とレベルの向上」、「病床のフル活用」です。これらの目標を実行するための戦略、戦術は、私の自治医大の時から「標準装備」という概念でした。300床の地域中核病院が“当然”具備すべき諸々の「施設要件」の獲得や「組織・運営体制」の整備でした。これらは、先進病院の事例を学んで、「なんちゃって」でもいい、中身はあとから」という気持ちで、外形構築から入りました。

勝負は立ち合いで決まりました。独法化初年度からいきなり5億円の収益増で黒字化したのです。医師・看護師数も建物も以前のままで達成した成功体験が翌年、翌々年も続き私たちの病院改革を加速しました。病院改革の中身は、

- ① 現在の医療体制の変革に絶えず追いつくこと、
- ② 収益増を目指して躊躇せず人員を確保すること、
- ③ 一方で新病院建築費をはじめ、診療材料費や委託費などを徹底して節約すること、
- ④ そして地区医師会や地域の医療機関、施設と、同じ地域の仲間ならではの連携を構築すること、
- ⑤ また組織として成熟すること、にも力を注ぎました。

最後の「自己改革できる組織風土の醸成」は、現代の高度化した医療において修得すべき必須の課題であると考えています。病院は、専門職という、組織の構成員という意識から最も縁遠い人たちの集まりだからです。

「病院はひとで成り立つ」、「病院は連携で成り立つ」、そして「病院は学びで成り立つ」、「病院が成り立つと経営が成り立つ」というのが今の実感です。小山地区医師会の歴代会長はじめ、理事、そして医師会員の皆様、本当にありがとうございました。

これからも、医師会旅行には誘ってくださいね!

令和 7年 3月

理事長・病院長 **島田 和幸**



目次:

病院長挨拶	1
新任医師紹介	2
医療連携の会	3
ポットラックカンファレンス	4
研修医卒業!	5
お知らせ	6

ハイライト

- 1月入職 新任医師 紹介
- 「医療・連携の会」次回と次年度開催日程について
- ポットラックカンファレンス 次年度開催日程!
- 第2期生の研修医卒業!
- 患者支援センターから、紹介・逆紹介率等の報告です

分からないこと、質問等ございましたら、いつでも、医療連携室までご連絡ください。



ドクターの紹介

1月に1名、新たに医師が入職しました。



形成外科
玄 相詰

令和7年1月より形成外科に赴任しました、玄 相詰（ヒョン サン Chol）と申します。宮崎大学を卒業後、自治医科大学形成外科へ入局いたしました。

慢性炎症性疾患や皮膚腫瘍、外傷について研究・臨床の研鑽を積んで参りました。

これまで経験してきた知識・技術をもとに、火傷、皮膚腫瘍切除術や眼瞼下垂などの治療について、小山地区医師会の先生方と連携させていただけますと幸いです。

微力ではございますが、県南地域医療に貢献できるように尽力して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

「CT装置を最新鋭のものに更新しました！！」

当院では、この度、CT装置を最新鋭のシーメンス社製「SOMATOM X.cite」に更新いたしました。

SOMATOM X.cite導入のメリット

- 高画質、高精度の画像診断：
 - 先端の検出器技術により、従来よりも高画質でノイズの少ない画像を取得できます。
 - 微細な病変の検出や、臓器の形態をより詳細に評価することが可能となり、より正確な診断に繋がります。
- 低被曝：
 - 新しいX線管技術の採用により、放射線量を低減しながら高画質な画像を取得できます。
 - 特に小児や高齢者の方など、放射線被曝への配慮が必要な患者様にとって、より安全な検査を提供できます。
- 検査時間の短縮：
 - 高速スキャンが可能になり、検査時間が短縮されます。
 - 患者様の負担を軽減し、ストレスのない検査を提供できます。



患者様へのメリット

- 早期発見、早期治療へ：

より正確な診断により、早期に病気を見つけることができ、早期治療に繋がります。
- 痛みが少なく、快適な検査：

検査時間が短縮され、放射線被曝も低減されるため、患者様の負担が軽減されます。
- 高度な医療の提供：

最新のCT装置による高度な画像診断により、より高度な医療を提供できます。

今後の展望

当院は、今後も最新の医療機器を導入し、地域住民の皆様に質の高い医療を提供してまいります。SOMATOM X.citeの導入により、画像診断の精度が向上し、より多くの患者様の健康に貢献できるものと期待しております。



勉強会活動報告

～ 地域完結型医療・連携の会～



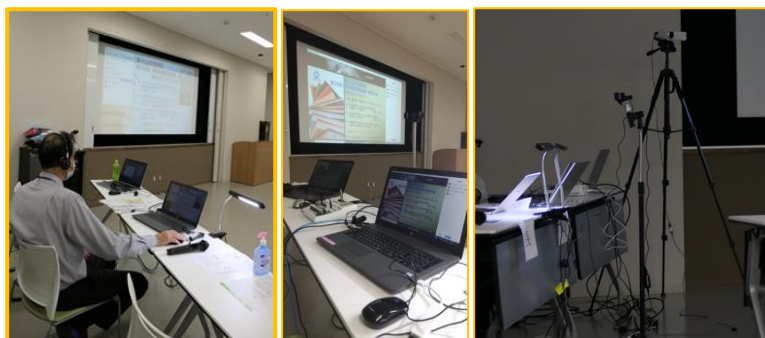
◆ 地域完結型 医療・連携の会

「地域完結型医療・連携の会」は、平成 27 年 11 月まで 3 年間行っていた「地域完結型医療を育てる会」を終了し、平成 28 年 5 月より名称を変更して、再スタートしました。本院の各診療科に紹介された症例報告・検討を通じて、診療情報や当該疾患の本院の診断・治療法を紹介して、情報交換の機会となっています。

これまで、新型コロナウイルスの影響で 2 回休止になりましたが、第 26 回からは会場と WEB (Zoom) でのハイブリッド開催とし、延べ 2702 名 (会場 2065 名、WEB 637 名) と多くの方にご参加いただきありがとうございます。

それから、来年度の「地域完結型医療・連携の会」の日程は、**5 月以外 奇数月の第 2 木曜日**に予定しています。また、来年度から「地域完結型医療・連携の会およびポットラックカンファレンスの録画配信」を予定しています。詳細につきましては、別途ご案内いたします。

更なる地域医療機関との信頼関係の向上、地域全体での医療水準の維持及び向上に努めますので、よろしくお願いいたします。



手探りでスタートしたハイブリッド開催ですが、改善を加え、このスタイルになりました
←

ハイブリッド
開催スタート

発表者の声を聞きやすく
する為に音響ミキサーを
導入

ビデオカメラで会場の
様子も見られます



第 5 2 回地域完結型医療・連携の会 WEB ライブセミナー

- ・日時 1月16日(木) 19:15～
- ・座長 大谷副院長
- ・症例報告者、症例
 - 循環器内科 蓮見医師
冠動脈性狭心症疑いに対して アセチルコリン負荷試験、
微小血管狭心症の評価を施行した一例
 - 呼吸器内科 棚橋医師
マイコプラズマ肺炎の一例
 - 腎臓内科 橋本医師
バラシクロビルによる急性尿細管間質性腎炎の1例
- ・院外参加者 28名



次回、「第 5 3 回 地域完結型医療・連携の会
WEB ライブセミナー」は、3/13(木)

(第 2 木曜日になります) に開催します。
皆様の参加をお待ちしております。

第 53 回

日 程

症例報告

令和 7 年 3 月 13 日 (木)
※第 2 木曜日

消化器内科・外科・小児科

R 7 年度 地域完結型医療・連携の会 WEB ライブセミナー予定

※令和 7 年度は、5 月以外 奇数月の第 2 木曜日に予定しています。

	日 程	症例報告
第 54 回	令和 7 年 5 月 15 日 (木) ※第 3 木曜日	整形外科・皮膚科・形成外科
第 55 回	令和 7 年 7 月 10 日 (木) ※第 2 木曜日	外科・耳鼻咽喉科・循環器内科
第 56 回	令和 7 年 9 月 11 日 (木) ※第 2 木曜日	脳神経内科・糖尿病代謝内科・泌尿器科
第 57 回	令和 7 年 11 月 13 日 (木) ※第 2 木曜日	脳神経外科・心臓血管外科・眼科
第 58 回	令和 8 年 1 月 8 日 (木) ※第 2 木曜日	循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科
第 59 回	令和 8 年 3 月 12 日 (木) ※第 2 木曜日	消化器内科・外科・小児科

地域完結型
医療・連携の会

奇数月、
第 2 木曜日 19:15
オンライン(Zoom)にて
開催します。

次回 3/13(木)
19:15 スタート

◆ ポットラックカンファレンス

「ポットラック (potluck)」とは、英語で「pot (鍋)」と「luck (運)」を組み合わせた言葉です。もともとは「その場にあるものを持ち寄る」という意味で、あり合わせのお料理をシェアする文化から生まれました。「ポットラックパーティー」は、パーティーの主催者がすべて準備する必要がなく、参加者全員が何かしらの料理や飲み物を持参することで負担が軽減され、気軽に楽しめる場を作り出せます。そのため、誰もが気軽に参加でき、初対面の人や親しい友人とのコミュニケーションを深めるきっかけにもなります。

この「ポットラックパーティー」のように、お料理や飲み物をシェアしながら、自然な会話が生まれ、小山地区医師会の先生方と当院の医師たちとの親睦を深めることを願い、小山地区医師会の先生、自治医科大学・総合診療科の先生、当院島田病院長の力でポットラックカンファレンスは2014年8月5日に始まりました。製薬会社などの周りの協力なしに、私たちの力だけで、日頃経験している身近な症例を持ち寄って行く、誰でも気楽に参加できる、私たちだけの検討会として始まったポットラックカンファレンスは、この10年間で、なんと！60回も続くカンファレンスとなりました。

現在は、新しい世話人の先生方も加わり、小山地区医師会以外の先生からの参加もあり、ますます充実した楽しいカンファレンスとして開催されています。

当初はお菓子とコーヒーを片手に、カンファレンスを行いました。当院職員のこだわりのドリップコーヒーを提供させていただいた回もありました。新型コロナウイルス感染拡大のリスクから開催中止の危機も脱し、現在では対面での開催とオンラインによるリモート開催を組み合わせたハイブリット形式で行っています。

また、世話人の先生方が奇数月の第1火曜日（予定）に集まり、楽しくお食事をしながら次回の発表症例を決定しています。これまで検討してきた症例は、世話人の先生方のお力により、全て小山地区医師会のHPで抄録を読むことができます。



ポットラック
カンファレンス

偶数月、
第1火曜日 19:15
オンライン(Zoom)にて
開催しています。

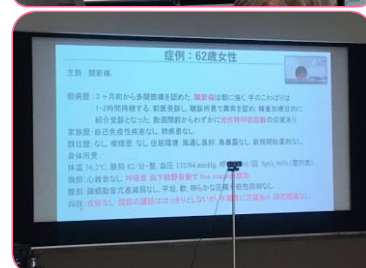
4/1, 6/3, 8/5,
10/7, 12/2, 2/3



(旧病院にて)



(新病院移転直後)



(最近)

令和7年度は、

4月1日(火)	6月3日(火)
8月5日(火)	10月7日(火)
12月2日(火)	2月3日(火)

を予定しております。



初期臨床研修第2期生研修修了！！



令和5年度に当院の第2期生として採用となりました初期臨床研修医の松山先生が、間もなく、研修修了を迎える予定です。

採用時には、1期生の研修医の良い噂が流れたのか、はたまた採用活動中に医学生5年生にきめ細やかに対応したのが功を奏したのか、何が要因となったのかはわかりませんが、2名枠を大幅に超える募集があったなか、マッチングし採用となりました。まだまだ事務局も慣れない中で不安もあったと思いますが、病院のイベント等にも積極的に参加いただきました。松山先生は、新たな目標に向かい当院から巣立っていきます。当院での研修が、少しでも今後の人生の糧となれば幸いです。

引き続き地域の先生方のご理解、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

新小山市民病院で初期臨床研修を終えての感想ということで、この度はこのような貴重な機会を頂きありがとうございます。私は研修医生活が終わる今年、満38歳となりました。私の出身は東京で、都内の私立高校を卒業後アメリカに渡りました。そこで一般教養と経済学を学び、某製薬会社でMRをしておりました。退職後に今度はハンガリーの医学部に進みE Uの医師免許獲得後、日本の国試に通り現在に至ります。節目節目でアルバイトをしながら渡航費を稼いでいた時期もあります。スーパーで野菜を切りながらお寿司を握っていた時代もあれば、工事現場で汗を流したり、ファッションモデルの付き人のような仕事もしていたりしておりました。

私がMRをしていた時代はまだ医師に対する接待や贈り物がギリギリ許されていた世代になります。新年の挨拶に桐箱に入ったワインやティファニーのペアマグカップを贈ることもしておりました。今では一部地域を除いて全く見なくなったかと思えます。またパワハラ宜しくOKな時代でもあり、上司の横にただ3時間立たされたのだ、履いていた革靴にビールを注がれて飲むのだ、味噌汁で顔を洗うのだ、今となっては社会が容認しないパワハラがまかり通っていた時代でもあります。これを読まれている先生方も研修医の時にもしかしたら似たような経験があるかもしれません。日本のサラリーマンの多くは苦難の中ではほぼ24時間働いておりました。

そんな色々？な経験をしてきた私ですが栃木県にはあまり所縁がありませんでした。旅行で数回きたぐらいの土地で「新小山市民病院」という病院は聞いたことがありませんでした。まず「おやま」なのか「こやま」なのか。なぜ「新」なのか。しかしレジナビで偶然当院を見つけ、詳しく調べると希望と最もマッチしていました。研修するならばここが一番良いと思い当院を選びました。MRなど様々な職種を経験していた私は「社会は怖いところだ」と刷り込まれていました。医師として就業する際は「MRよりも陰惨なことがあるだろう」と都内から臆病風に吹かれながら着任したわけです。

ところが現在の日本は絶賛働き方改革中、セクハラ・パワハラは許さないという社会の変革期でした。当院もその潮流の中で改革に取り組んでおり私が当初予想していたようなことはおこりませんでした。むしろ人生の中でも幸せな期間を過ごすことができました。

当院は2022年から初期臨床研修医の募集を開始し、私はその2期生となります。正直に言えば当院は研修医との接し方に関しては慣れていないと感じました。しかしルールやプログラムが組織に浸透していなかったからか、研修医との接し方は個人個人の人間性によっていたと思います。私にとってこの確立されていない環境にとっても助けられました。

内科研修中に採血をしていた時のことです。患者は右片麻痺で左前腕にルートがありました。この場合当院は左足で採血をしますが、当時の私は良く分かっておらず左前腕から血液を採りました。他の患者の採血が終わりしばらく経つと、とある看護師さんが「先生、ルートのあるところから採血してはいけませんよ。代わりのスピッツ用意してきました。一緒に行きましょう」と柔やかに声をかけてくれました。夜勤明けで疲れている中、私のミスに気付きすぐさまスピッツを検査室まで走って取ってきてくれたわけです。そして採血の御作法を教えて頂きました。

指導医からだけでなく、このように日常的に多くの方から心を砕いて接して頂きました。人に支えられるという経験があまりなかった自分にとってはとても暖かい環境でした。その中で研修医として過ごせたのはありがたい経験だったと思います。縁もゆかりも無い土地にビクビクしながら来ましたが、蓋をあければぬくぬくと育てて頂きました。折れずに無事研修医生活を終えられ感謝しております。

4月からは循環器科の専攻医として新たなスタートを切ります。小山に来た時と同様に環境が変わることに不安を抱いている今日このごろです。どこまで出来るかはわかりませんが、多くの方に支えられて始まった医師人生、この先も折れずに頑張っていきたいと思えます。

再度、新小山市民病院に関係する全ての方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。（松山）



患者支援センター

(受付時間 平日 8:30~17:15)

医療連携室：

0285-36-0252

(緊急の患者紹介・転入相談・
その他地域連携に関すること)

予約専用ダイヤル：

0285-36-0254

(もの忘れ外来・内科・脳神経
内科・循環器内科の受診予約・
胃カメラ・心エコー・腹部エコー
などの検査予約)

医療相談室：

0285-36-0256

(医療相談・退院調整に関するこ
と・MSWに連絡・その他、外来患
者の各種相談に関すること)

FAX：

0285-36-0352

メール：

renkei@hospital.oyama.tochigi.jp

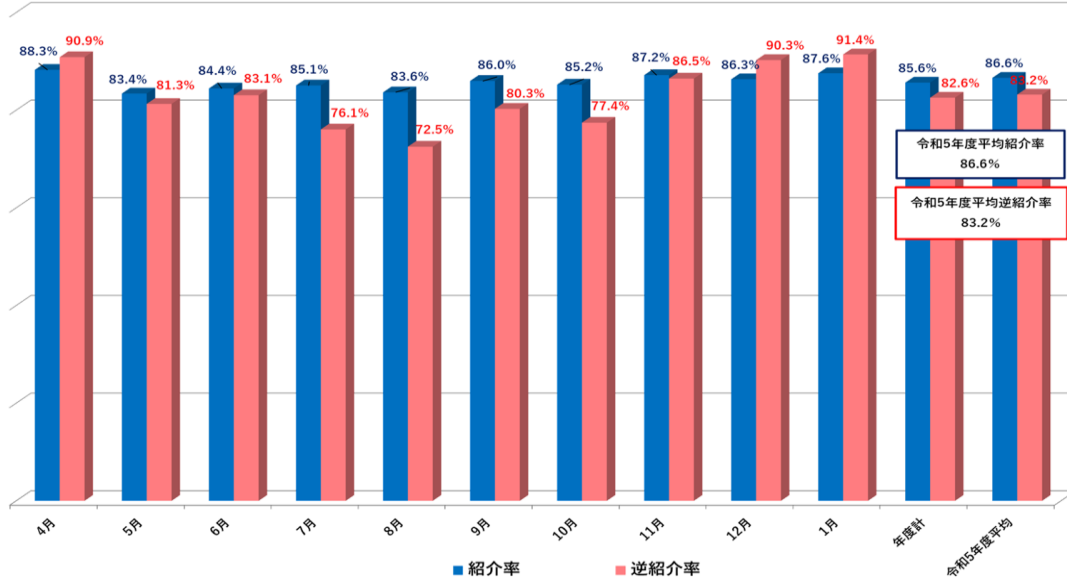
※メールでも受付しております。

患者支援センターからのお知らせ



いつも当院運営にご理解、ご協力頂きありがとうございます。
4月～1月計は、前年比で紹介患者数508人増でした。

令和6年度 紹介率・逆紹介率



小山の心臓と脳を守ります！

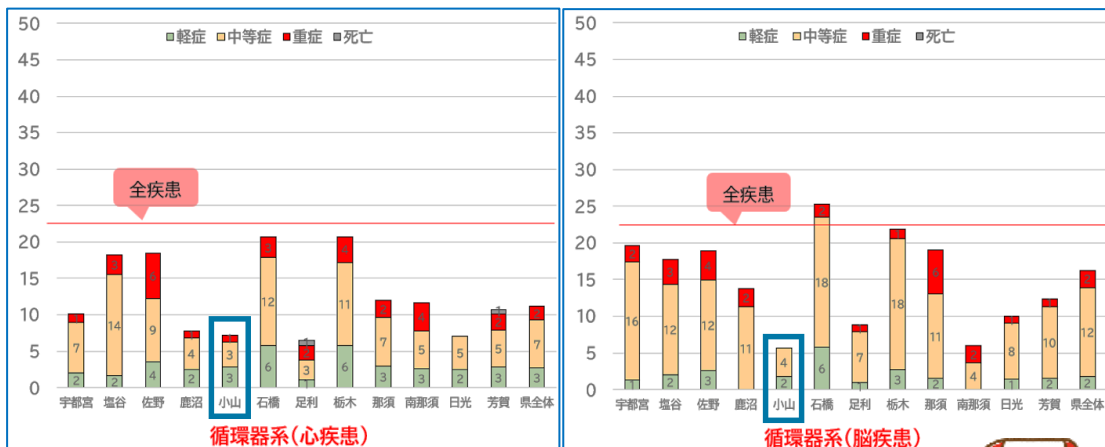
～現場滞在時間30分以上の救急搬送人員割合(2022年)～

このデータは、栃木県内各地域において、救急隊が現場に到着してから、搬送先の病院に向けて出発するまでの時間(現場滞在時間)に30分以上を要した割合(%)を示すもので、心疾患と脳疾患を抜粋したものです。青囲いが小山地区(小山市・野木町)になります。

ご覧のように、小山地区は、心疾患・脳疾患ともに他の地区に比べて非常に好ましい水準となっており、すみやかに搬送されていることが見て取れます。

この背景には、強固な地域救急医療体制(1次救急・2次救急・3次救急)が確立されている背景のもとで、新小山市市民病院をはじめとした各救急医療機関の医療スタッフによる「患者を救う」情熱と、小山市消防本部との連携の強さが奏功しています。

新小山市市民病院は、引き続き救急医療体制の充実を図ってまいります。
地域の先生方におかれましては、引き続きご期待とご支援を賜れますと幸甚です。



【単位：％】

※不搬送及び転院搬送を除く

※救急搬送が多い疾患の上位10位について比較



【出典】栃木県・救急医療体制のあり方に関する検討委員会



地方独立行政法人
新小山市市民病院

〒323-0827

栃木県小山市神鳥谷 2251 番地 1

☎ 0285-36-0200 (代表)

ホームページ

<http://hospital-shinoyama.jp/>

看護師採用サイト

<http://hospital-shinoyama.jp/nurse/>

Facebook

[https://www.facebook.com/shin.oya
ma.city.hospital](https://www.facebook.com/shin.oyama.city.hospital)



独法化10周年を
記念して記念誌を
作成しました。
ぜひご覧下さい。